

第 29 回日本作業療法教育学会のご案内

テーマ：未来に向けた“作業療法教育の羅針盤” —地域共生社会における作業療法の深化—

大会長：丹羽 敦（福岡国際医療福祉大学）

実行委員長：青山 克実（九州栄養福祉大学）

会 期：2024 年 11 月 30 日（土）13 時 15 分 ～12 月 1 日（日）15 時 55 分

会 場：福岡国際医療福祉大学（福岡市早良区百道浜 3-6-40）

プログラム：特別講演、指定講演、基調講演、シンポジウム、ポスター発表

* 日本作業療法教育学会 総会

【開催趣旨】

現在、作業療法士の社会的認知度が問われており、賃上げの停滞、協会への入会率低下、養成校の定員割れ等の問題が顕在化しています。これらの問題に対して、我々作業療法士は、作業療法が国民に求められ、また小中高生に“作業療法士”が将来なりたい職種として選ばれるよう、国民の健康に貢献すべく現場の実践力を高め、作業療法の成果をエビデンスをもって示すことが重要です。また、令和 6 年度は、「トリプル改訂（診療報酬、介護報酬及、障害福祉サービス等報酬の改定）」の年であり、厚労省もこれらの改定における基本的視点の一つに「地域包括ケアシステムの深化・推進」が示されました。すなわち地域共生社会の中でいかに作業療法の専門性を可視化できるか、についても、作業療法（士）の社会的認知度を向上させる課題といえます。

そして、このような課題解決に向かっては、現在の多様な価値観をもった社会において、地域に貢献し、作業療法の可能性、存在感を示すことが大切であり、専門的知識、技能は勿論のこと、地域と作業療法の共存の可能性を創造していく、そんなプロフェッショナルリズムの育成が、学内教育、臨床実習教育、職場内教育といった卒前・卒後を通じた作業療法教育において重要であると考えます。

そこで、今回のテーマを「未来に向けた“作業療法教育の羅針盤”—地域共生社会における作業療法の深化—」としました。講演では、職能団体としての取り組み、作業療法の独自性を生かした地域共創の実践報告、過去・現在を振り返りこれからの作業療法教育への期待、といった内容を企画しております。ぜひ、これらの講演をもとにシンポジウムの中では、未来に向けた作業療法士育成の手引きとなる指針について、参加者皆様と活発な議論を期待しております。

今、地域社会には多岐にわたり作業療法の独自性を発揮できる場があり、新たな役割を示す契機でもあります。今回の学会大会は、コロナ禍以前の開催形態に戻し 1 日半の対面形式で開催致します。福岡の地で、皆様の作業療法士としてのキャリアビジョンを存分に語り合ってください。

実行委員一同、多くの皆様の参加をお待ちしております。

（大会長：丹羽敦）

【実行委員会からのお知らせ】

大会 WEB サイトをオープン致しました。随時更新してまいります。
参加登録は 7 月より開始いたします。
また、大会では演題を募集します。左記 QR コードよりアクセスください。

